

令和 7 事業年度

財 務 諸 表 (高齡・障害者雇用支援勘定)

独立行政法人 高齡・障害・求職者雇用支援機構

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

貸借対照表
(令和8年3月31日)

(単位：円)

資産の部

I	流動資産		
	現金及び預金	4,770,378,830	
	未収金	1,064,451,554	
	未収消費税等	6,499,695	
	賞与引当金見返（注）	684,796,891	
	棚卸資産	877,035	
	前払金	1,218,035	
	前払費用	48,898,113	
	流動資産合計		6,577,120,153
II	固定資産		
1	有形固定資産		
	建物	7,350,689,955	
	減価償却累計額	△ 2,076,447,581	
	減損損失累計額	△ 21,271,764	5,252,970,610
	構築物	345,134,255	
	減価償却累計額	△ 193,142,064	
	減損損失累計額	△ 144,342	151,847,849
	車両運搬具	287,958,547	
	減価償却累計額	△ 255,998,134	31,960,413
	工具器具備品	533,419,552	
	減価償却累計額	△ 388,860,757	144,558,795
	土地	5,187,507,000	
	減損損失累計額	△ 86,256,000	5,101,251,000
	建設仮勘定		113,626,417
	有形固定資産合計		10,796,215,084
2	無形固定資産		
	電話加入権		324
	無形固定資産合計		324
3	投資その他の資産		
	敷金		257,067,798
	退職給付引当金見返（注）		5,798,556,332
	破産更生債権等	800,000	
	貸倒引当金	△ 800,000	0
	投資その他の資産合計		6,055,624,130
	固定資産合計		16,851,839,538
	資産合計		23,428,959,691

貸借対照表

(令和8年3月31日)

(単位：円)

負債の部

I	流動負債			
	運営費交付金債務 (注)		1,707,662,000	
	未払金		2,752,288,033	
	未払費用		5,432,004	
	前受金		3,135	
	短期リース債務		2,225,686	
	預り金		646,884,618	
	引当金			
	賞与引当金	684,796,891	684,796,891	
	資産除去債務		526,350	
	流動負債合計			5,799,818,717
II	固定負債			
	資産見返負債 (注)			
	資産見返運営費交付金	808,451,002		
	資産見返寄附金	11,104		
	建設仮勘定見返運営費交付金	334,344		
	建設仮勘定見返施設費	113,292,073	922,088,523	
	長期リース債務		7,960,462	
	引当金			
	退職給付引当金	5,798,556,332	5,798,556,332	
	資産除去債務		503,455	
	固定負債合計			6,729,108,772
	負債合計			12,528,927,489

純資産の部

I	資本金			
	政府出資金		10,071,426,773	
	資本金合計			10,071,426,773
II	資本剰余金			
	資本剰余金		4,124,996,816	
	その他行政コスト累計額 (注)		△ 4,074,096,006	
	減価償却相当累計額 (△)		△ 2,110,677,369	
	減損損失相当累計額 (△)		△ 128,565,699	
	除売却差額相当累計額 (△)		△ 1,834,852,938	
	資本剰余金合計			50,900,810
III	利益剰余金			
	積立金		609,954,049	
	当期末処分利益		167,750,570	
	(うち当期総利益 167,750,570)			
	利益剰余金合計			777,704,619
	純資産合計			10,900,032,202
	負債純資産合計			23,428,959,691

(注) 独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目

(高齢・障害者雇用支援勘定)

行政コスト計算書
(令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日)

(単位：円)

I	損益計算書上の費用		
	業務費	15,934,781,598	
	一般管理費	1,061,512,765	
	財務費用	60,138	
	臨時損失	3,302,031	
	損益計算書上の費用合計		16,999,656,532
II	その他行政コスト		
	減価償却相当額（注）	189,795,372	
	減損損失相当額（注）	105,238,023	
	除売却差額相当額（注）	42,497,234	
	その他行政コスト合計		337,530,629
III	行政コスト		17,337,187,161

(注) 独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目

損益計算書

(令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日)

(単位：円)

経常費用

業務費		
人件費	4,705,994,258	
助成金	1,613,510,000	
業務委託費	75,840,381	
減価償却費	95,178,198	
貸倒引当金繰入	400,000	
賞与引当金繰入	654,469,895	
退職給付費用	149,774,799	
その他の業務費	8,639,614,067	15,934,781,598
一般管理費		
人件費	312,715,087	
減価償却費	22,233,312	
賞与引当金繰入	30,326,996	
退職給付費用	9,163,897	
その他の一般管理費	687,073,473	1,061,512,765
財務費用		
支払利息	60,138	60,138
経常費用合計		16,996,354,501

経常収益

運営費交付金収益（注）		
運営費交付金収益	14,216,145,035	
資産見返運営費交付金戻入	291,778,058	14,507,923,093
補助金等収益（注）		
補助金等収益	1,613,510,000	1,613,510,000
業務収益		
その他の事業収益	5,859,972	5,859,972
施設費収益（注）		153,864,168
寄附金収益（注）		
資産見返寄附金戻入	10,969	10,969
賞与引当金見返に係る収益（注）		684,796,891
退職給付引当金見返に係る収益（注）		158,938,696
財務収益		
受取利息	5,883,285	5,883,285
雑益		34,712,295
経常収益合計		17,165,499,369
経常利益		169,144,868

臨時損失

固定資産除却損		612,595
国庫納付金（注）		781,703
減損損失		1,907,733
臨時損失合計		3,302,031

(高齢・障害者雇用支援勘定)

損益計算書

(令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日)

(単位：円)

臨時利益

資産見返運営費交付金戻入 (注)

1,907,733

臨時利益合計

1,907,733

当期純利益

167,750,570

当期総利益

167,750,570

(注) 独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目

純資産変動計算書

(令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日)

	Ⅰ 資本金		Ⅱ 資本剰余金								Ⅲ 利益剰余金				純資産合計
	政府出資金	資本金合計	資本剰余金				その他行政コスト累計額			資本剰余金合計	積立金			利益剰余金合計	
			施設費	運営費交付金	減資差益	国庫納付差額	減価償却相当累計額(△)	減損損失相当累計額(△)	除売却差額相当累計額(△)			うち当期総利益			
当期首残高	10,109,940,901	10,109,940,901	1,694,600,103	163,365,920	486,460,158	△ 108,813,000	△ 1,955,762,169	△ 23,327,676	△ 1,757,475,532	△ 1,500,952,196	442,323,062	167,630,987	-	609,954,049	9,218,942,754
当期変動額															
Ⅰ 資本金の当期変動額															
不要財産に係る国庫納付等による減資	△ 38,514,128	△ 38,514,128													△ 38,514,128
Ⅱ 資本剰余金の当期変動額															
固定資産の取得			1,919,844,314							1,919,844,314					1,919,844,314
固定資産の除売却							34,880,172		△ 75,060,244	△ 40,180,072					△ 40,180,072
減価償却							△ 189,795,372			△ 189,795,372					△ 189,795,372
固定資産の減損								△ 105,238,023		△ 105,238,023					△ 105,238,023
不要財産に係る国庫納付等						△ 31,861,269			△ 2,317,162	△ 34,178,431					△ 34,178,431
その他の資本剰余金の当期変動額(純額)				1,400,590						1,400,590					1,400,590
Ⅲ 利益剰余金の当期変動額															
(1)利益の処分															
利益処分による積立て											167,630,987	△ 167,630,987		0	0
(2)その他															
当期純利益												167,750,570	167,750,570	167,750,570	167,750,570
当期変動額合計	△ 38,514,128	△ 38,514,128	1,919,844,314	1,400,590	0	△ 31,861,269	△ 154,915,200	△ 105,238,023	△ 77,377,406	1,551,853,006	167,630,987	119,583	167,750,570	167,750,570	1,681,089,448
当期末残高	10,071,426,773	10,071,426,773	3,614,444,417	164,766,510	486,460,158	△ 140,674,269	△ 2,110,677,369	△ 128,565,699	△ 1,834,852,938	50,900,810	609,954,049	167,750,570	167,750,570	777,704,619	10,900,032,202

(高齢・障害者雇用支援勘定)

キャッシュ・フロー計算書
(令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日)

(単位：円)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー

業務費及び一般管理費による支出	△ 8,799,859,436
人件費支出	△ 6,069,875,149
助成金支出	△ 1,613,510,000
その他預り金支出	△ 7,801,720
運営費交付金収入	15,833,453,000
補助金等収入	2,254,483,000
補助金等の精算による返還金の支出	△ 1,023,515,000
その他預り金収入	2,221,720
その他業務収入	32,141,023

小計 607,737,438

利息の受取額	5,883,285
利息の支払額	△ 51,989

業務活動によるキャッシュ・フロー 613,568,734

II 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出	△ 2,052,643,205
敷金及び保証金の差入による支出	△ 1,455,590
敷金及び保証金の回収による収入	50,000
施設費による収入	592,990,130
定期預金の預入による支出	△ 4,100,000,000
定期預金の払戻による収入	4,100,000,000

投資活動によるキャッシュ・フロー △ 1,461,058,665

III 財務活動によるキャッシュ・フロー

不要財産に係る国庫納付等による支出	△ 71,157,100
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△ 1,104,859

財務活動によるキャッシュ・フロー △ 72,261,959

IV 資金減少額 △ 919,751,890

V 資金期首残高 5,690,130,720

VI 資金期末残高 4,770,378,830

(高齢・障害者雇用支援勘定)

利益の処分に関する書類

(単位：円)

I 当期末処分利益 当期総利益	167,750,570	167,750,570
II 利益処分額 積立金		<u>167,750,570</u>

重要な会計方針

「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」(令和3年9月21日改訂)並びに『独立行政法人会計基準』及び『独立行政法人会計基準注解』に関するQ&A(令和4年3月最終改訂)(以下「独立行政法人会計基準等」という。)を適用して、財務諸表等を作成しております。

1. 運営費交付金収益の計上基準

業務達成基準を採用しております。

管理部門の活動については、期間進行基準を採用しています。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法は、先入先出法による原価法を採用しております。

3. 減価償却の会計処理方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

有形固定資産の減価償却の方法については、定額法を採用しております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3～50年
構築物	3～50年
車両運搬具	4～6年
工具器具備品	2～16年

また、特定の償却資産(独立行政法人会計基準第87第1項)及び資産除去債務に対応する特定の除去費用等(独立行政法人会計基準第91)に係る減価償却に相当する額については、減価償却相当累計額として資本剰余金から控除して表示しております。

(2) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

4. 貸倒引当金の計上基準

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

5. 賞与に係る引当金の計上基準

役職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上しております。なお、運営費交付金により財源措置がなされる見込みであるため、賞与引当金と同額を賞与引当金見返として計上しております。

6. 退職給付に係る引当金の計上基準並びに退職給付費用の処理方法

役職員の退職給付に備えるため、当該事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。

過去勤務費用は、その発生時の役職員の平均残存勤務期間による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における役職員の平均残存勤務期間による定額法により

(高齢・障害者雇用支援勘定)

按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

なお、退職一時金並びに確定給付企業年金等に係る掛金及び年金積立金不足額については、運営費交付金により財源措置がなされる見込みであるため、退職給付引当金と同額を退職給付引当金見返として計上しております。

7. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金は、手許現金及び随時引き出し可能な預金からなっております。

8. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

重要な会計上の見積り

退職給付引当金

1. 当事業年度の財務諸表に計上した金額

	当事業年度
退職給付引当金	5,798,556,332円

2. 会計上の見積りの内容について国民その他の利害関係者の理解に資するその他の情報

採用している退職給付制度の概要につきましては、注記事項〔退職給付債務関係〕に記載した内容と同一であります。

退職給付引当金は、退職給付債務に未認識過去勤務費用及び未認識数理計算上の差異を加減した額から年金資産の額を控除して算出しており、退職給付債務は、役職員の退職により見込まれる退職給付の総額のうち、期末までに発生していると認められる額を割り引いて計算しています。また、退職給付に関連する損益の計算において、年金資産の額に長期期待運用収益率を乗じた期待運用収益の額を考慮しており、実際運用収益との差異は未認識数理計算上の差異として将来に渡って費用処理されます。従って、割引率及び長期期待運用収益率が重要な会計上の見積りに用いた主要な仮定となります。割引率は国債の利回りを参考に決定しており、長期期待運用収益率は、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮し決定しております。

これらの仮定について、将来の不確実な経済条件の変動等により見直しが必要となった場合、翌事業年度の財務諸表において認識する退職給付引当金に影響を与える可能性があります。

会計上の見積りの変更

資産除去債務の見積りの変更

石綿障害予防規則（平成17年2月24日公布）に基づく処理義務

当機構が保有している一部の固定資産について、新たな情報の入手に伴い、見積額の変更を行っております。これによる影響額は、△1,025円であります。

注記事項

〔貸借対照表関係〕

- ・その他行政コスト累計額のうち、出資を財源に取得した資産に係る金額 △ 2,851,867,204 円

〔行政コスト計算書関係〕

1. 独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

行政コスト	17,337,187,161 円
自己収入等	△ 46,466,521 円
国庫納付額	△ 781,703 円
機会費用	466,970,951 円

独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト 17,756,909,888 円

2. 機会費用の計上方法

- (1) 国又は地方公共団体の財産の無償又は減額された使用料による貸借取引から生ずる機会費用の計算方法

都道府県に所在する施設で国及び地方公共団体から借り受けている財産のうち、土地・建物及び土地に定着している工作物については法律等から算出した使用料を、その他の財産は減価償却相当額を計上しております。

- (2) 政府出資又は地方公共団体出資等から生ずる機会費用の計算に使用した利率

10 年利付国債の令和 8 年 3 月末利回りを参考に 2.345% で計算しております。

- (3) 国又は地方公共団体との人事交流による出向職員から生ずる機会費用の計算方法

当該職員が国又は地方公共団体に復帰後退職する際に支払われる退職金のうち、独立行政法人での勤務期間に対応する部分について、給与規則に定める退職給付支給基準等を参考に計算しております。

〔損益計算書関係〕

・ファイナンス・リースが損益に与える影響額は、△27,756 円であり、当該影響額を除いた当期総利益は 167,778,326 円であります。

・業務費 人件費の内訳

給与及び手当	4,004,152,431 円
法定福利費（職員）	686,339,664 円
役員報酬	13,337,962 円
法定福利費（役員）	2,164,201 円

(高齢・障害者雇用支援勘定)

・その他の業務費のうち主要な費目及び金額

謝金	4,967,825,176 円
維持管理・保守修繕費	983,406,498 円
賃借料	758,349,560 円
雑役務費	701,067,225 円
備品費	256,529,174 円

・一般管理費 人件費の内訳

給与及び手当	256,329,860 円
法定福利費（職員）	44,302,385 円
役員報酬	10,731,591 円
法定福利費（役員）	1,351,251 円

・その他の一般管理費のうち主要な費目及び金額

維持管理・保守修繕費	287,020,794 円
雑役務費	114,954,898 円
備品費	90,785,829 円
謝金	28,933,989 円
消耗品費	27,943,675 円

・雑益のうち主要なもの及び金額

その他の雑収入	17,959,729 円
職員宿舍使用料	15,950,855 円
自動販売機等設置手数料	555,909 円
不用品売却代	211,180 円
電柱等土地敷地使用料	25,500 円

[キャッシュ・フロー計算書関係]

・資金の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金及び預金勘定	4,770,378,830 円
資金期末残高	4,770,378,830 円

・重要な非資金取引

ファイナンス・リースによる資産の取得	11,291,007 円
--------------------	--------------

〔金融商品関係〕**1. 金融商品の状況に関する事項**

当機構では、余裕金の運用については独立行政法人通則法第47条の規定に定める金融商品に限定しており、株式等は保有しておりません。

未収金等に係る債務者の信用リスクは、会計規程等に沿ってリスク低減を図っております。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、業務実施に必要な資産の調達を目的としたものがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

令和8年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、現金は注記を省略しており、預金、未収金、未払金及び預り金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 敷金	257,067,798円	251,197,992円	△ 5,869,806円
資産 計	257,067,798円	251,197,992円	△ 5,869,806円
(1) リース債務	(10,186,148円)	(9,961,794円)	(△ 224,354円)
負債 計	(10,186,148円)	(9,961,794円)	(△ 224,354円)

(注) 負債に計上されるものは()で示しております。

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の三つのレベルに分類しております。

レベル1の時価： 同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価： レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価： 重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

○資産**(1) 敷金**

敷金については、差し入れた敷金額を契約における残存期間に対応する国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

○負債**(1) リース債務**

短期及び長期のリース債務については、元利金合計額の将来キャッシュ・フローを、信用リスクを反映した割引率で割り引いて算定する方法によっており、レベル2の時価に分類しております。

[不要財産に係る国庫納付等]

不要財産に係る国庫納付等については以下のとおりです。

令和6年度において処分を行ったもの

(1) 不要財産としての国庫納付等を行った資産の種類、帳簿価額等の概要	(2) 不要財産となった理由		(3) 国庫納付等の方法		(4) 譲渡収入による現金納付等を行った資産に係る譲渡収入の額	
土地、建物（職員用宿舍） 帳簿価額 政府出資分：38,941,928 円 地方公共団体出資分：0 円	「独立行政法人の職員宿舍の見直しに関する実施計画」（平成24年12月14日行政改革担当大臣決定）に基づき、処分を進めたため。		金銭納付		73,500,000 円	
(5) 国庫納付等に当たり譲渡収入から控除した費用の額	(6) 国庫納付等の額		(7) 国庫納付等が行われた年月日		(8) 減資額	
	国庫納付	地方公共団体への払戻し	国庫納付	地方公共団体への払戻し	国庫納付	地方公共団体への払戻し
2,342,900 円	71,157,100 円	-	令和7年12月24日	-	38,514,128 円	-

[資産除去債務関係]

1. 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

石綿障害予防規則（平成17年2月24日公布）に基づく処理義務

当機構が保有している一部の固定資産にはアスベスト（石綿）が使用されており、除去について石綿障害予防規則に基づく処理が義務付けられていることから、当該法的義務に係る資産除去債務を計上しております。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

石綿障害予防規則（平成17年2月24日公布）に基づく処理義務

使用見込期間は、原則として有形固定資産の耐用年数満了時までとしております。資産除去債務の算定に当たり、割引率は0.195%から1.150%を適用しております。

(3) 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

当事業年度における資産除去債務の残高の推移は次のとおりであります。

期首残高	1,024,081 円
有形固定資産の取得に伴う増加額	—
見積りの変更による影響額	△1,025 円
時の経過等による調整額	6,749 円
資産除去債務の履行による減少額	—
当事業年度末残高	1,029,805 円

(4) 当該資産除去債務の見積りの変更

石綿障害予防規則（平成17年2月24日公布）に基づく処理義務

当機構が保有している一部の固定資産について、新たな情報の入手に伴い、見積額の変更を行っております。これによる影響額は、△1,025 円であります。

(高齢・障害者雇用支援勘定)

2. 資産除去債務のうち貸借対照表に計上していないもの

当機構が地域障害者職業センターの設置に伴い締結している一部の不動産賃貸借契約等に基づく原状回復義務については、当該義務に関連する賃借資産の使用期間が明確ではなく、将来移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、履行時期が明らかになったものを除き、当該義務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

〔減損損失関係〕

【減損の認識に関する事項】

当事業年度において、以下のとおり減損損失を計上しております。

1. 減損認識の対象資産

用途	種類	場所	帳簿価額
地域障害者職業センター	土地、建物等	栃木県宇都宮市外1箇所	275,445,758円

なお、帳簿価額については、減損認識前の期末帳簿価額を記載しております。

2. 減損の認識に至った経緯

施設の用途廃止により減損を認識しております。

3. 減損損失の金額

区 分	損益計算書に 計上していない金額	損益計算書に 計上した金額	合計
土 地	86,256,000円	0円	86,256,000円
建 物 等	18,982,023円	1,907,733円	20,889,756円
合 計	105,238,023円	1,907,733円	107,145,756円

4. 減損損失額の測定方法

正味売却価額により測定し、不動産鑑定評価額等により算定しております。

〔退職給付債務関係〕

1. 採用している退職給付制度の概要

当機構は、役職員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度として、企業年金基金制度及び退職一時金制度を採用しております。企業年金基金制度（積立型制度である。）では、労働関係法人企業年金基金に加入しており、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。退職一時金制度（非積立型制度である。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	6,148,136,725円
勤務費用	253,085,822円
利息費用	112,854,341円
数理計算上の差異の当期発生額	223,468,985円
退職給付の支払額	△ 214,947,782円
期末における退職給付債務	6,522,598,091円

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	2,033,494,291 円
期待運用収益	39,246,440 円
数理計算上の差異の当期発生額	66,784,947 円
事業主からの拠出額	155,401,346 円
退職給付の支払額	△ 128,900,314 円
期末における年金資産	2,166,026,710 円

(3) 退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務	2,476,332,284 円
年金資産	△ 2,166,026,710 円
積立型制度の未積立退職給付債務	310,305,574 円
非積立型制度の未積立退職給付債務	4,046,265,807 円
小 計	4,356,571,381 円
未認識数理計算上の差異	630,784,630 円
未認識過去勤務費用	811,200,321 円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,798,556,332 円
退職給付引当金	5,798,556,332 円
前払年金費用	—
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,798,556,332 円

(4) 退職給付に関連する損益

勤務費用	253,085,822 円
利息費用	112,854,341 円
期待運用収益	△ 39,246,440 円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	13,502,300 円
過去勤務費用の当期の費用処理額	△ 181,257,327 円
合 計	158,938,696 円

(5) 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりです。

債券	28.5%
株式	15.5%
預金	0.3%
その他	55.7%
合 計	100.0%

(6) 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎 (加重平均で表しております。)

割引率 1.747% (一時金)

1.975% (年金)

長期期待運用収益率 1.930%

〔重要な債務負担行為〕

施設整備費補助金により、以下の工事契約を締結しております。

(1) 障害者職業総合センター大規模改修工事 (高層棟等) (第1期) 監理業務

契約金額	20,350,000 円
当期支払確定額	0 円
次期以降支払額	20,350,000 円

(2) 高知障害者職業センター棟等建替その他工事設計業務

契約金額	47,066,250 円
当期支払確定額	6,930,000 円
次期以降支払額	40,136,250 円

(3) 群馬障害者職業センター空調設備等更新工事

契約金額	272,248,040 円
当期支払確定額	250,040 円
次期以降支払額	271,998,000 円

(4) 千葉障害者職業センター空調設備等更新工事設計業務

契約金額	15,700,000 円
当期支払確定額	1,466 円
次期以降支払額	15,698,534 円

(5) 埼玉障害者職業センタートイレ等改修工事設計監理業務

契約金額	5,478,000 円
当期支払確定額	0 円
次期以降支払額	5,478,000 円

(6) 鳥取障害者職業センタートイレ等改修工事設計監理業務

契約金額	5,280,000 円
当期支払確定額	3,168,000 円
次期以降支払額	2,112,000 円

(高齢・障害者雇用支援勘定)

(7) 宮崎障害者職業センタートイレ等改修工事設計監理業務	
契約金額	5,280,000 円
当期支払確定額	3,168,000 円
次期以降支払額	2,112,000 円
上記(1)～(7)合計額	
契約金額 計	371,402,290 円
当期支払確定額 計	13,517,506 円
次期以降支払額 計	357,884,784 円

〔重要な後発事象〕

該当する事項はありません。